

幸

三年

画数 10
筆順 ナ 寺 壺 幸
オン コウ
クン さいわい・さち・しあわりせ

成り立ち



逆さぶりのけいばつをうけて、逆さぶりにされた形をあらわした「前」と、にげ走る形をあらわした「土(走年182)」とを組み合わせて作った字で、「逆さぶりのけいばつからうまくのがれる」「さいわい」をえること「をあらわしたものです。

「さいわい」をえる」こと。「しあわせ」。「神のめぐみをうける」ことです。

また、「天子のお出かけ」のことを「行幸」といいます。

使い方

▽道路でころんだが、幸いに、どこもいためなかった。
▽ぼくは「青い鳥」という本を読みました。チルチルという男の子と、ミチルという女の子が、幸せを運んで来るといふ青い鳥をさがしに行くものがたりです。

熟語例

▽幸福(幸いをえること。幸せなこと。「わたしは、今、とても幸福です」などというふうには、つかいません。)
▽不幸(①「幸福」。幸せでないこと。「両親に先立たれる」という不幸にもめげず、たくましく育つ」などというふうには、つかいません。)
▽幸運(幸せな運命。幸福なめぐりあわせ。「幸運にめぐまれた人生をおくる」などというふうには、つかいません。)
▽薄幸(幸せが薄いこと。あまり幸せでないこと。「薄幸な女の身に同情する」などというふうには、つかいません。)
▽行幸(天子さまが、お出かけになること。「みゆき」ともいいます。「天皇陛下が、ヨーロッパに行幸された」などというふうには、つかいません。)

使い方

▽船が長い海の旅を終えて、やっと港に着きました。
▽東京港には、たくさん船が、出入りしています。

熟語例

▽漁港(漁をする船のための港。魚をとる船が出入りし、取って来た魚を陸あげする港です。)
▽入港(船が港へ入ること。「まもなく、この船は、大阪港に入港します」などというふうには、つかいません。また、今では、船だけでなく、飛行機が空港に到着することも「入港」といいます。)
▽出港(船や飛行機が、港を出ること。)
▽空港(空の港。ということでは、飛行機が発着するところ。成田空港からは、世界各地に向けて、飛行機が飛び立っている「などというふうには、つかいません。)
▽海港(海に面した港。また、海外との貿易に使われる港のこと。「海港」といいます。)
▽開港(港を開くこと。また、海外との貿易のために開かれた港のことをいいます。)
▽築港(港を築くこと。船が出入りできるように、工事すること。いいます。)

港

三年

画数 12
筆順 一 川 洪 港 港
オン コウ
クン みなと

成り立ち



にぎやかな町のいみをあらわした「邑(都3年381)」と、公共(みんなていっしょにつかう)のいみの「共(4年491)」とを組み合わせて作った、「巷(にぎやかな町の大通り・ちまた)」に、「シ」をくわえた字で「舟がにぎやかに出たり入ったりする」「水べの町・みなと」をあらわした字です。

巷は、「町の公共のところ」といういみの字ですから「町中の道」といういみの字ですが、ただ「町」といういみにも「道」といういみにもつかわれています。またこの字の訓の「ちまた」も、古くは「分かれ道」といういみにつかわれましたが、今では「巷の声」というように「町中」のいみにつかわれています。